

オンライン研修におけるアプリケーションの活用について

目白大学 人間学部 子ども学科 助教 佐藤 牧子

2021 年度 造形美術教育フォーラムの企画運営を通して、ハイブリッド型のフォーラムにおけるアプリケーションの活用の観点から、フォーラムの報告とデジタルデータの活用について述べ、最後に教員養成校、特に実体験を大切にしてきた造形美術教育の分野から発信して欲しいことについてまとめました。



1. 2021 年度 造形美術教育フォーラムについて



■日程：2022 年 2 月 19 日 (土) 13:30~16:30

■開催方法：zoom 開催

環境国形ワーカー「キットパス」をきっかけに、新たな創造、探求、問い直しの時間を待ちませんか？
キットパスを使い、参加者が各自でやってみたいことにトライする教材研究型ワークショップです。
幼児～大学の寛容発表に加え、ワークショップ参加者の取り組みをオンライン上で共有し、ディスカッションします。

参加申し込みは、この全美協HPまたは右下のQRコードから。
オンラインワークショップの参加費 (先着 20 名) には、事前にキットパスをお送りします。
其他の参加費 (人数超過) は、OK です。
申し込み締切日：2022 年 2 月 1 日 (日)

主催：全国大学造形美術教育教員養成協議会
協賛：日本短期大学協会 (JASU)
お問い合わせ：mak.asato@meji.ac.jp 佐藤牧子 (目白大学)
編集：meji@zenbikyou.com



- ◆日程：2022 年 2 月 19 日 (土) 13:30~16:30
- ◆内容：キットパスを使った教材研究型ワークショップ

「創造、探究、問い直し、そのきっかけは ^{キットパス} 画材！」

- キットパス商品説明 (日本理化学工業)
- 事例報告 (実行委員 3 名)
- ワークショップ (会場+オンライン)
- 発表、共有・ディスカッション

- ◆開催方法：ハイブリッド型

zoom+会場 (①聖徳大学 ②たねのくにこども園)

- ◆対象：全美協会員、教育・保育関係者

◆実行委員：大成哲雄 (聖徳大学)、鳥越亜矢 (中国短期大学)、佐藤牧子 (目白大学)

フォーラムの趣旨（フォーラムの案内より引用）

「私たちは幼いころから様々な画材に親しんでいます。クレヨン、パス、マーカーなどはその代表格です。こうした画材と出会い、様々な技法にチャレンジしたり、どんなものに描けるのか、らくがきや試行錯誤を楽しんだりしながら豊かで多様なイメージの創出を楽しむ過程の中で、私たちは実に様々なことを体感し、学びを得ています。

この度のフォーラムでは、全美協の賛助会員である日本理化学工業株式会社開発の環境固形マーカー「キットパス」を取り上げます。「キットパス」を使ったワークショップや、多角的な視点で様々な現場で行った実践報告を行い、画材としての可能性を体感し、キットパスを使って起きた様々な学びを皆さんと共有したいと思います。」

フォーラムの形態

コロナ禍における開催ということもあり、全面オンラインでの開催という選択肢もありましたが、オンラインの利点を生かして、対面のワークショップ会場（千葉県、岡山県）と日本各地のリモートによる参加者を中継で繋ぎ、体験を共有するというハイブリッド型の形態を取ることにしました。

フォーラムの参加者

対面によるワークショップの会場には、全美協開催のフォーラムであることを意識して、実際に現場で働く保育者や小学校教諭とともに教材研究を行う意義とリカレント教育の両観点から参加者を募りました。聖徳大学（千葉県松戸市）には、現役の保育者や小学校教諭、大学からは音楽科教員、さらにキットパスの製造販売元である日本理化学工業（株）の方にもご参加いただき、8名（運営2名除く）が集いました。同じくワークショップの会場となった中国学園大学・中国短期大学附属たねのくにこども園（岡山県岡山市）からは、園内研修も兼ねて保育者14名（運営3名除く）にご参加いただきました。加えて、長崎県、岡山県、兵庫県、愛知県、茨城県、千葉県、東京都からも、リモートでワークショップにご参加くださった方が17名おり、結果的にワークショップの参加者は39名となりました。さらに、キットパスをすでに実践している方を中心に、ワークショップの中継をオンライン上で見ていただく形でご参加くださった13名を加えると、フォーラムの参加総数は52名（運営5名除く）という結果でした。

*リモートでのワークショップの参加希望者には、事前にキットパスを送付して、当日はzoomを繋いだままリモートで参加していただきました。

フォーラムで大切にしていたこと

本フォーラムでは、保育の現場から養成校の教員まで、参加地域も含めてフィールドの違う参加者が、1つの画材（キットパス）を通して、共に教材研究を行うことの意義を大切にするという観点から、体験や情報の共有、ディスカッションによる交流に重きを置きたいと考えました。そこで、ワークショップ終了後に行う「発表・共有・ディスカッション」で使用するアプリケーションを吟味した結果が以下の通りです。

アプリケーションの選定

フォーラムで使用するアプリケーションは、フォーラムで大切にしたい事柄を踏まえて選定する必要がありました。その結果、アプリケーションに求めることと特徴が概ね一致したものが、**オンライン掲示板「Padlet」**でした。

	アプリケーションに求めること	Padlet の特徴
1	アプリケーションへのアクセスが容易であること	・参加者は、アプリケーションへの登録が不要 ・リンク・QRコードから、主催側が準備しているボードに投稿、参加することができる。
2	操作がわかりやすいこと 写真の投稿が容易であること	・オンラインホワイトボードなどと比較すると、使用できるツール数が少ないが、複雑な編集を必要としない場合には、ツールの少なさが使いやすさにつながる。
3	短時間で体裁を整えて、アウトプットができること	・フォーマットにそって投稿するため、簡単な操作で投稿ができる。よって、体裁を整えることにスキルと労力を必要としない。
4	相互コミュニケーションを取ることができること	・投稿に対して、コメントやリアクションができる。
5	投稿データの編集、活用が可能なこと	・投稿されたデータのフォーマットを変更することができる。(フォーマット数:7種類) ・ボードをデータごとリメイク(コピー)できる。
6	参加者が、フォーラム終了後にも活用可能性を感じられるアプリであること (特に造形美術の分野において)	・導入の容易さ、データの活用の可能性、共有方法、エクスポートのメニューが多い。 ・プライバシー設定によって、色々なパターンの活用が可能である。

※ アプリケーションの概要をご覧になる方は、P11をご覧ください。

フォーラムにおける Padlet の活用【フォーマット: ストリーム】

- ▶ zoom 画面で Padlet の投稿を共有しながら、投稿者の話を聞いたり、参加者とディスカッションを行ったりした。
- ▶ 参加者は、各自のペースで投稿を見ることが出来る。



設定
新しい投稿
を上に表示

* 表示順は
逆も可

投稿⑤

投稿④

投稿③

投稿②

投稿①

プライバシー設定・訪問者の権限

非公開
Padletを非公開に設定します。他のユーザーは、存在を知っていたとしても実際にアクセスすることはできません。

パスワード
Padletを非公開に設定します。他のユーザーと共有する場合にはアクセスパスワードが必要となります。

メンバーのみ
Padletを非公開に設定します。ログインしたユーザーのみがこのPadletにアクセスできます。

シークレット
Padletを非公開に設定します。ボードを共有したユーザーのみがこのPadletにアクセスできます。

公開
作成したPadletをプロフィールに表示させて、より多くの人にアピールしましょう。

訪問者の権限 **書き込み可能**

閲覧可能
投稿の閲覧が可能です。投稿の追加、他ユーザーの投稿の編集・承認、Padletの修正・削除、コラボレーターの招待はできません。

書き込み可能
投稿の閲覧・追加が可能です。他ユーザーの投稿の編集・承認、Padletの修正・削除、コラボレーターの招待はできません。

編集可能
投稿の閲覧・追加、他ユーザーの投稿の編集・承認が可能です。Padletの修正・削除や、コラボレーターの招待はできません。

投稿手順

1) フォーラム用に設けられた Padlet のボードに、QR コード、リンクからアクセスする

※参加者が Padlet に登録、ログインをする必要はない

2) 既存の写真、またはその場で撮影した写真に、タイトルとキャプションを記入して投稿する ※動画も投稿可

※背景色は 6 色から選べる(白・桃・黄緑・黄・水・紫)

3) 新しい投稿が上部に表示される (設定により変更可)

参加者の投稿が蓄積される

4) フォーラム終了後も、参加者から追加投稿があった

ボードのプライバシー **シークレット** * 詳細は左下参照

投稿者の権限 **書き込み可能** * //

※掲載内容はイメージ

Padlet を使用した結果

ワークショップの時間内（45 分間）は、参加者が各々の活動に集中していたことから、ワークショップ内での投稿はありませんでしたが、ワークショップ終了後から、徐々に投稿が蓄積されていき、最終的には動画を含む 37 件の投稿が参加者に共有されました。当初の予定では、Padlet への投稿を中心にディスカッションを行うことを考えていましたが、実際には参加者が積極的にワークショップにおける取り組みを発表し、共有してくれたことから、Padlet の出番は予定よりも少ない結果となりました。しかし、事後アンケートからは、Padlet の活用が面白かったという声や、Padlet と併用した研究会に可能性が広がったという参加者の声が寄せられたことから、本フォーラムには適したアプリケーションであったと言えるのではないかと考えました。

そこで、次に「2. Padlet によるデジタルデータの活用」と称して、授業や研修会等における Padlet の活用例を提示しながら、デジタルデータの活用について考えていきたいと思います。

フォーラムの詳細について

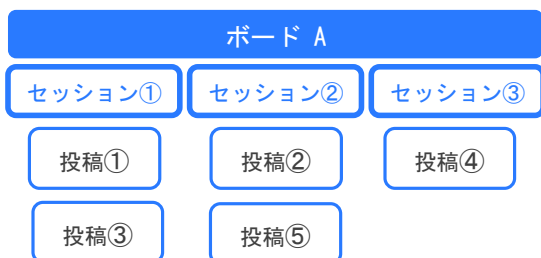
その他、本フォーラムの詳細については、2022 年度の全美協研究誌にて報告させていただきます。

2. Padlet によるデジタルデータの活用

今回のフォーラムにおいて、使用するアプリケーションを厳選した背景には、個人的にデジタルデータの活用について考えてみたいという思いがあったからです。ICT の活用、GIGA スクール構想、DX(デジタル・トランスフォーメーション)など、教育の現場でも日々耳にする言葉ですが、実際に何かできているのだろうかと考えた時、実は既存のアナログデータをデジタルデータに置き換える類のことが中心のように思うのです。広義においては、WEB 会議やオンライン研修会もデジタル化と言えます。その意味では、今回のフォーラム実現に向けて、岡山県・千葉県・東京都にいる実行委員が、毎月のように打ち合わせを行い、内容を詰めていくことができたのも、WEB 会議なしには成し得ないことでしたし、コロナ禍において日本各地から参加者が集うフォーラムを開催することができたのも、まさにデジタル化のおかげです。これらは、言うまでもなく 2019 年に突如世界を襲った新型コロナウイルスに端を発したものです。いつどのような形で収束するかは不明ですが、これを機に進んだデジタル化は、アフターコロナにおいても無くなることはないでしょう。そうであればこそ、アナログをデジタルに変換するところから1歩先に進んで、デジタル化したデータを活用して、新たに何を生み出すことができるのかについて創造する必要があると思うのです。積極的にデジタルデータの活用ができれば、逆に造形美術教育や子どもの教育の分野において、アナログ的な実体験が必要とされる場面をしっかりと守ることができると思います。以下、今回のフォーラムで Padlet に投稿されたデータを活用する方法を少し考えてみました。新規作成は元より、全て 1 度回収したデータを、場面に応じて簡単な編集によって活用することができるイメージです。

活用例 (1) 投稿内容をカテゴライズする【フォーマット: シェルフ】

▶ 投稿内容をカテゴライズして整理したい時に便利。個人や複数人のディスカッションにおいても有効。



投稿手順

パターン A

- 1) 最初にカテゴリーを[セッション]として設定しておく
- 2) 投稿者が、投稿内容に合ったセッションに投稿(+)

パターン B

- 1) 最初は[セッション]を設定せずに、投稿を行う
- 2) 投稿が出揃ったら、ディスカッションをしながら、KJ法の要領でカテゴライズする(セッションを作る)

投稿後の編集

- * 編集機能を使い、投稿写真にタイトルや、活動内容等を追加
- * セッション、写真の追加削除、順番の入れ替えが可能
- * フォーマット、全体・個別投稿の背景色は変更可能



活用例 (2) 制作過程を可視化する【フォーマット: タイムライン】

- ▶ 活動時間が限られている中で、制作過程を可視化したい、ドキュメンテーションを作りたい時に便利。
- ▶ ボードの単位を個別、グループ、活動内容など、目的に応じて立ち上げることにより活用の可能性が広がる。



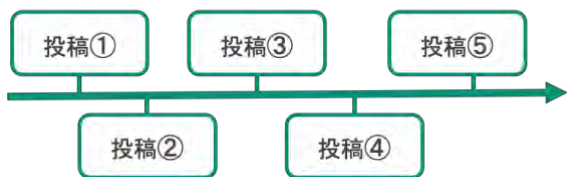
投稿手順

- 1) 制作をしながら、活動過程の写真を投稿
- 2) 投稿順に時系列に掲示される
- 3) ドキュメンテーションの完成

投稿後の編集

- * 編集機能を使い、投稿写真にタイトルや、活動内容等を追加
- * 写真の追加削除、順番の入れ替えが可能
- * フォーマット、全体・個別投稿の背景色は変更可能

ボード A



★ボードの投稿設定でコメントを許可することにより、複数の人が制作過程での気づきを追記していくことができ、制作過程の見取りを深めることにも使える。



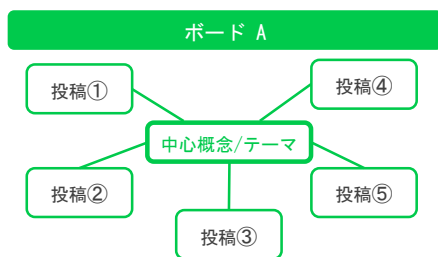
活用例 (3) マインドマップ、アイデアマップを作る【フォーマット: キャンバス】

- ▶ マインドマップ、アイデアマップの要領で、個人またはグループディスカッションにおいて、自由な思考で、アイデア出しや情報の流れを描写したい時に便利。



キャンバス プレビュー

コンテンツをランダムに並べたり、まとめたり、連結させたりと自由自在に配置できます。



投稿手順

- 1) 中心となる概念/テーマに関連するアイデアを投稿する
- 2) 中心となる概念/テーマとアイデアを接続する

連結元となるアイデア(投稿)上で右クリックして、[投稿に接続]の機能で連結する

- 3) アイデアレベルに合わせて分岐する

投稿後の編集

- * 編集機能を使い、投稿写真にタイトルや、活動内容等を追加
- * 写真の追加削除、順番の入れ替えが可能
- * フォーマット、全体・個別投稿の背景色は変更可能

★個別投稿の背景色を投稿者に割り当てることで、アイデアを出した人をわかりやすくすることもできる。



活用例 (4) 投稿データを再利用する【リメイク】

- ▶ 既存のデータを使用して継続的な活動を行いたい時などは、既存のボードをリメイク(コピー)すると便利。
- ▶ 記録や SNS で公開したいが、公開許可を得ることができなかった投稿者が混ざっている時などは、元データを残したまま、リメイク(コピー)したボード上で、該当する投稿のみを削除するなどして公開することもできる。



Padlet の機能について

以上、フォーマットの変更など Padlet の機能を使って、デジタルデータを活用する方法の一部を挙げてみました。Padlet は、オンライン掲示板のジャンルがゆえに、オンラインホワイトボードにあるようなツール(ペン、消しゴム、図形、トリミング、付箋など)はありません。オンラインホワイトボードの Miro などと比べると、明らかにツールは少なく、ある意味では自由度の低いアプリケーションと言えます。当然のことながら、用途に合わせて使い分けことが前提ですが、相手の ICT スキルがわからないような一見さんが集う研修会などの場においては、高機能がゆえに、操作に労力を奪われて、本題に集中できない状態が起きていないだろうかということを少し気にしておく必要があると思うのです。Padlet は、投稿する方法と内容が全て同じでも、管理者がフォーマットを使い、場面に応じて見せ方を変えることが可能なので、集めたデータをフィードバック用に作り変えて返却するというのも良いかもしれません。その点では参加者の負担に比べて、活用の幅が広い点が魅力と言えます。

3. 教員養成校が発信する研修や講義について

最後に、教員養成校、特にこれまでも実体験を大切にしてきた造形美術教育の分野が発信する研修や講義について、考えていることを述べたいと思います。

コロナ禍において急速にデジタル化が進みましたが、教育現場における ICT の活用は、それ以前から言われてきたことです。しかし、小学校以降の現場に比べると、保育現場は ICT 化の波に乗り遅れている感が否めません。背景には、保育が実体験を何よりも大切にしているということがあるからです。それは紛れもない保育の真実ですので、否定する余地はありません。しかし、果たして理由はそれだけなのだろうかと考えた時、実は ICT の活用が進まないもう1つの理由は、目の前に起きているアナログな出来事と、ICT の機能を結びつけて、何ができるのかを新たに創造することが難しいからなのではないかと思うのです。ICT は、改めて言うまでもなく“道具”です。“道具”は、使いこなして初めて意味を成し、その“道具”の魅力を知り、恩恵を受けてこそ新たな創造が生まれると思うのです。そういう意味では、保育現場で多様な使われ方をしている“糊”などと比べると、ICT の理解は十分とは言えません。何事にも言えることですが、理解が不十分であれば、結果的に必要以上に拒絶をしたり、逆に、十分な理解がないまま全面的に受容したりすることになってしまいます。パッケージ化された ICT 教材を取り入れることを決して否定はしませんが、常に子どもとともに過ごしている人たちが、“道具”のことを知らないがために、“道具”の成すメリットとデメリットを十分に理解せずに、全面的に受け入れるようなことだけは避けられると良いと思うのです。

そんな私が期待していることは、教員養成校、特に実体験を大切にしてきた造形美術教育の分野が発信する研修や講義なのです。コロナ禍において、造形美術教育の分野では明らかに多くの苦労がありました。今なお続いている状況ではありますが、コロナ禍で先生方が試行錯誤をした経験と知識の蓄積を、実体験と ICT を結びつけることに苦労をしている保育の現場に向けて、発信して欲しいと思うのです。例えば、今回取り上げた Padlet というアプリケーションを使えば、理解の及ぶ範囲で容易にドキュメンテーションを作成できます。1年に1回、手作りの装飾とともに記録されるドキュメンテーションも、もちろん大切な財産です。しかし、そこに掛ける保育者のエネルギーを、もっと細やかに子どもの日々の制作の過程を追うことに使うことができたなら、どうだろうかと思うのです。そしてそのデータが、形を変えて別のことにも活用できたとしたら、浮いた時間と労力を実体験でしか味わえないことに回すことができるのではないかと思うのです。これは、コロナ禍において学生生活を送っている学生に対しても、意識的に伝えていく必要があると考えています。望まぬともコロナ禍において身につけたスキルは、卒業後の学生自身にとって大きな力となり、ひいては保育現場の課題を解決する一助になると考えられます。そういう意味で、あくまでも主題は造形美術教育ですが、そこに付随する確かなスキルを「物のついで」くらいの感覚で軽やかに、されど確実に発信して欲しいと願うのです。

お読みいただき、ありがとうございました。

Padlet の概要

Padlet プラン

<https://padlet.com>

- ▶ 無料版: 作成できるボード数は 3 つまで
- ▶ Padlet Backpack: For school
- ▶ Padlet Briefcase: For business
- ▶ Padlet Pro: For individuals pro at life

Padlet 設定項目の一部

The screenshot displays three panels of the Padlet settings interface:

- プライバシー設定を変更 (Privacy Settings):** Options for visibility: 非公開 (Private), パスワード (Password), メンバーのみ (Members only), シークレット (Secret), and 公開 (Public).
- 共有 (Share):** Options for sharing: リンクをクリップボードにコピー (Copy link), QRコードを取得 (Get QR code), ブログまたはウェブサイトに埋め込み (Embed), メールアドレス (Email), Facebookでシェア (Share on Facebook), Twitterでシェア (Share on Twitter), and Google Classroomでシェア (Share on Google Classroom).
- リメイク (Remix):** Options for remixing: デザインをコピー (Copy design), 投稿をコピー (Copy post), and 作成者をコピー (Copy creator).

Padlet ボード フォーマット

The screenshot shows seven board format options, each with a preview and a '選択' (Select) button:

- ウォール (Wall):** コンテンツをブロック形式のレイアウトにまとめます。
- ストリーム (Stream):** 上から下に流れるフィードで、コンテンツを読みやすく整理します。
- ストーリーボード (Storyboard):** コンテンツをボックス型で一列に整理します。
- シェルフ (Shelf):** 連なった列にコンテンツを追加していきましょう。
- マップ (Map):** マップ上の地点にコンテンツを追加してください。
- キャンパス (Canvas):** コンテンツをランダムに並べたり、まとめたり、連結させたりと自由自在に配置できます。
- タイムライン (Timeline):** コンテンツを横線に沿って配置します。